

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900173		
法人名	一関市病院事業		
事業所名	グループホーム やまばと		
所在地	〒029-3405 岩手県藤沢町藤沢字町裏56番地		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同系事業体に藤沢病院があり、かかりつけ医にもなっており多様な相談・治療が受けられる。また、訪問看護が週2回来所し利用者の健康管理を行っている。施設での看取り対応も可能である(現在1名あり)。要介護度が重度になった場合でも、入浴や福祉用具等併設されている特別養護老人ホームからの協力を頂くことが出来る。また、デイサービスとの交流も盛んに行っており、デイサービスで実施している地域交流事業の参加や、やまばとの利用者がボランティアとして活躍出来る場にもなっている。緊急時や災害が発生した時は、近隣の協力や母体である特別養護老人ホームの協力を頂く事が出来る。また、同系事業体の施設(老健、デイサービス、特別養護老人ホーム)内の利用者の方々が、親しい友人や知り合いと合う事が出来て会話を楽しむ事が出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一関市藤沢町の中心地で商店街が近く、公共施設、住宅が多い高台に立地し、藤沢病院や特別養護老人ホーム(以下「特養」)、デイサービスセンター等と同系事業体として運営されるグループホームである。かかりつけ医療機関の藤沢病院からは訪問看護や訪問診療の支援があり、看取り対応も可能な状況にあるなど、医療連携体制が優れている。地域との連携と交流にも注力しており、昨年は特養とも連携してインマルシェ(青空市)を開催する等、積極的な取り組みが行われている。また、特養等と共同で身体拘束適正化検討委員会でスピーチロック対応にも取り組み、具体的な言葉を例示した判りやすい啓発文書をホーム内に掲示する等の工夫も行い、職員全体の意識向上を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グルーホームの在り方、役割について、事業所理念を掲げ、年度初めに職員全員で共通理解を図る。また常に意識をして行動出来る様に目の届く所に掲示し実践に繋げている。	三つの運営理念は利用者や家族、職員にとって具体的で判りやすい。その理念をもとに、毎年度の介護計画の行動目標を定めており、今年度は6項目の具体的な取組目標としている。これらを玄関やホール内、事務室に掲示し、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される諸行事や学校等で行われる行事への参加や当事業所主催の行事へ地域の皆様を招待し地域住民との交流を行っている。また、地域の方々が野菜等持って来所されており、そのような所から交流出来ているし繋がりを大切にしている。	地域との交流を積極的に行っており、町内会にはお茶会の場を提供するほか、ホームの夕涼み会や芋煮会には多くの住民が来訪している。昨年は新しい取り組みでインマルシェ(青空市)も開催した。小学校の行事には良く出掛け、中学生もボランティア体験で来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議には、近隣の方々の参加があり交流を深めていく中で、認知症という症状や当施設で実践している対応方法を、例を通して在宅介護に役立つ内容をお伝えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には委員として、市の関係者の出席のほか、自治会、近隣の方、民生委員の出席を頂いている。その中で当事業所の取り組み状況についての報告、話し合いを行っている。また、殆どの利用者も参加しており話し合いに入ってくことで、日常で気付かなかったことやわかる事が有り、それをサービスに繋げている。	委員は家族代表の他、町内会や民生委員、地元社協、行政関係者等でありバランス良い構成となっている。4月に予定した会議は、新型コロナウイルス対応のため開催できず5月に書面開催となった。6月は出席での開催となったが、感染症対策に関する話題が多かった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一関市病院事業のグループホームであり、運営推進会議委員で一関市広域行政組合より推薦された保健福祉課の職員も出席して下さり、施設内のケアサービスの取り組みを伝える事が出来ており、情報交換も出来ている。	運営推進会議には介護保険担当の市職員が毎回参加するほか、地元社協の職員も参加しており、ホームの運営状況は良く把握してもらっている。要介護の認定や更新の際などに市役所支所を訪れるなどで、連携体制を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体である光栄荘の身体拘束適正化検討委員会で活動し、身体拘束の取り組みを行っている。また、関係機関の通知等、身体拘束に関して職員に回覧、掲示をして情報を共有している。玄関の施錠については夜間帯のみ行い日中は開放している。	適正化指針を作成済みであり、委員会は近接する特養とデイサービスセンターとの合同で2ヵ月毎に開催されている。転倒防止のためのベッドセンサーは、ご家族に説明のうえで4人の利用者が使用している。スピーチロックに関しては委員会でも検討されており、具体的な言葉を例示して事務室に掲示し注意喚起している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する関係機関からの通知や情報については、職員に回覧し周知している。母体である光栄荘の身体拘束適正化検討委員会にも参加し、情報があれば持ち帰りグループホーム会議で勉強会を実施する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームの近隣に専門家が在住している。運営推進会議にも参加して頂いており情報提供を頂いている。意見交換等もあり勉強会にもなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入所時、退所時また改定時の都度、御家族様に説明し契約書にて同意を頂いている。また、不安や疑問点はないか伺い必要に応じて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様も出席して頂き意見や要望等を話が出来る機会を設けている。また利用者毎に担当職員を決めており、生活の中で利用者の意向を確認し会議等で話し合いサービスに繋げている。	大半の利用者は要望等をお話できる状態にあり、会話の中で聞き取っている。実家の様子を気にしたり、買物に出掛けたいとの要望などがある。家族には毎月広報誌と一口メモを送付して近況を知らせているほか、来訪時には面談して要望等を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のケア会議や月1回のグループホーム会議の中で、業務の見直しやカンファレンスを行い意見等も聴き運営に反映させている。	職員は月1回のホーム会議のほか、毎週開催のケア会議、毎日の昼休み時間などに意見を話しており、「なんでもノート」に記載することも実践している。年1回は行っている管理者との個人面談は、意思疎通の大切な機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の生活を優先した上で、勤務時間内に業務が終了出来る様に常に業務改善や工夫を話し合いを重ねより良く働ける職場環境をつくるよう努めている。また人事評価制度の導入、資格に応じて昇給する仕組み、一定の基準に基づき定期的に昇給を判定する仕組みがある。		

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一関病院事業や事業所内で開催される研修会等や事業所内で開催される勉強会(認知症ケア、リスクマネジメント)に参加している。また、グループホーム会議では個々に応じた認知症ケアの質を高めるために勉強会、話し合いをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内には当事業所を含め2カ所のグループホームがあり、各事業所で開催される大きな行事にはお互いにご案内や招待を受けたり交流をさせて頂いている。藤沢地区の福祉事業所が参加する支援会議にも参加し、情報交換も出来て勉強会の場にもなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、担当ケアマネ、施設ケアマネより情報収集を行い把握に努める。また、ご本人に寄り添う体制を作り要望等を伺いながら良好な関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前からご家族様の不安なこと、要望等を伺いながら少しでも安心してサービスを利用出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族様より悩み等を聞き出せるように関わり、現在何が必要かを判断し気持ちに応じた対応を行う。居宅ケアマネ、行政等と連携を図り職種間の連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の視点に立ち、その人らしく過ごして頂けるように、一人一人を尊重し認め合い、共に生活をしていることを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を尊重しながら、ご家族様との情報共有を行い、可能な限り面会や自宅への外出、外泊をご家族様の協力を頂きながら行っている。		

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの散髪店を今でも利用していたり、町内の同級生の家にお茶のみに出掛けたりしている。また、利用者の親戚が近隣に住んでおり面会に来て頂いている。他の利用者とも顔なじみになり面会を楽しみにしている。	家族のほか、町場にあるため近所にある病院への通院のついでに来訪する友人や知人もいる。新型コロナのために面会制限中であり、利用者にも我慢してもらっている。馴染みの理容店に出かける方もいる。近所の薬局を馴染みとして買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとり嬉しいこと、不安なこと、相性を知りそれぞれが孤立しないように、また好きなことが出来る様な環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した際には面会に伺い状態把握に努めている。退院の見込みがなくなり退所になった場合でも面会に伺ったりご家族への声掛けを行うことにしている。また、事業所の特養に長期入所になった場合には、行事や面会にて交流を持ち、職員への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族のから昔のことを聞いたり、希望や意向を伺いながら、出来ることや好きなことを出来るだけ行えるように支援している。また、自分の気持ちを話したりできない利用者に関しては、普段の会話や行動、表情等から意向を汲み取るよう努めている。	多くの利用者が言葉で思いや意向を話せる状態にあり、その希望に沿った介護を心掛けている。また、ベテラン職員が多く、利用者の言葉や動作などから、意向を的確に把握することができている。把握した情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の契約の時や面会時にご家族より生活歴やこれまでの暮らし方等聞き取りをしている。また、入所前の担当ケアマネージャーより情報を収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の基本的な日課に添いつつ、一人ひとりの生活スタイルに合わせ、その日の心身状態を把握した上で自己決定や自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとの担当職員が月1回のモニタリングを行っている。週1回、月1回の会議で利用者全員の確認事項を話し合っている。ご家族には面会時や電話にて意向を伺い本人とご家族の意向をすり合わせを行っている。	ケアプランの原案はケアマネが作成し、職員カンファレンスで話し合いのうえ、家族の了解を得て決定している。月1回は担当職員がモニタリングを行っており、プランの見直しは6ヵ月毎を基本としているが、変化が見られる場合は随時の見直しを行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を時間ごとに記録をしている。職員間で情報を共有しながらグループホーム会議やカンファレンス等で評価をし実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週案計画に立案出来ていない場合でも、利用者の体調面等が良ければ外出、ドライブ、または隣接の特養に面会へ行ったりと利用者のその時々生まれたニーズや思いを大切にしよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所へ散歩や外出時には近隣の方々に声をかけて頂いている。また、行事等にはボランティアで参加して盛り上げて頂き利用者も楽しい時間を過ごすことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医が協力病院であり、本人、ご家族のご希望で協力医を受診している。看取り対応については協力医との連携を図り対応している。通院の付き添いは職員が対応しており、受診時の報告をその都度電話でご家族に連絡している。場合によってはご家族の対応するときもあるし、同席して頂くこともある。	大半の利用者が近所にある藤沢病院をかかりつけ医としており、入居前から診察を受けていた方が多い。同病院から週2回看護師が来訪してくれるほか、月1回は訪問診療もある。通院は職員が付き添うが、近くであり予約制なので時間的な負担は多くない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化は日誌に記録しており、訪問看護師へ報告や相談をして、早期発見、早期対応に勤めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院看護師へ施設での生活状況等を報告し、本人、ご家族が安心して治療を受けられるようにしている。また、入院中は面会し様子を伺い、退院許可が出た場合は早期に対応しご家族の協力も頂きながら病院との連携を図っている。		

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重度化した場合や終末期の在り方について説明を行い、ご家族の意向を確認している。事業所で出来ること出来ないことを説明し、話し合いを行いながら、意向によっては特養の長期申請を勧めている。本人の状態やご家族の心情の変化を察しながら、情報共有し本人にとってより良い終末期を迎えられるようチームで取り組んでいる。	入居時には重度化や看取りに関する説明を行い了解を頂いている。重度化すると隣接する特養に入所するケースもある。看取りについては、かかりつけ病院からの協力を得られる状況にあり、取り組みは可能であるが、まだ実際の取り組み事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の光栄荘の医務研修会の資料を抜粋し、急変時の対応や応急手当等をグループホーム会議で確認する。対応についてのマニュアルの作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害時訓練は実施している。運営推進会議等で災害時の対応について話をし地域との協力も依頼している。	市のハザードマップでは洪水等の浸水や土砂崩れ危険地等の指定はないことを確認している。避難訓練は毎月実施を計画しているが、新型コロナの影響もあって取り組みが少ない。夜間避難の場合は隣接する特養ホームの夜勤職員の協力も想定している。	高齢者施設での被害が心配される状況にあり、特に夜間想定避難訓練を行うことにより特養からの応援を具体的に確認するなどの取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体の光栄荘の認知症委員会へ参加し、そこから認知症高齢者の基礎的知識や尊厳の保持等の勉強や情報収集している。また、広報等への写真や名前の掲載についてはご家族に同意を得て行っている。	トイレ誘導の声掛けでは、周囲に聞こえないように本人の耳元で話し、入浴や着替えの際にも羞恥心に配慮したケアを心掛けている。入室時のノックと声掛けを行い、居室入口には暖簾をかけて目隠しとして配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、行動や表情で利用者のその時の希望や思いを理解しそれを職員間で共有出来ており、自己決定出来るよう働きかけている。利用者主体のケアを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の1日の基本的な流れはあるが、利用者個々の意向を伺ったり、状態を見ながら食事時間や内容、入浴、活動等その日の生活について臨機応変に対応している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の準備はご家族や担当が本人の希望等を伺いながら用意している。また、希望によりご家族や職員と買い物に出かけることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか伺いながら、旬の食材を取り入れながら1週間の献立を立てて提供している。畑で収穫した野菜の下ごしらえ、盛り付けや配膳、テーブル拭き、後片付け等出来ることを役割分担をしながら、職員と一緒にやっている。	献立は栄養士資格を有する職員が作成し、2食は職員が作り、1食は法人の給食部から取り寄せている。食材は地元スーパーから購入する他、野菜等の差し入れも多い。利用者は下ごしらえや食器拭きなどを手伝っている。誕生日では希望のメニューを用意し楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェックし不足の時は利用者に合わせた対応で補うようにしている。栄養バランス等は母体の光栄荘の栄養士に相談しアドバイスを頂いて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態を確認し声かけ等行いながら口腔ケアを実施している。また毎月1回、母体の光栄荘の口腔ケア委員会に参加し歯科衛生士のアドバイスを頂きながら対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い失禁を減らしている。	現在は布パンツ使用で排泄の自立が3人、リハビリパンツとパット使用が6人と、オムツ使用者はいない。ポータブルトイレの利用は2人いる。排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導と確認を行っており、失禁等の際には、特に思いやりを持って対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは食事内容や水分量等であるべく自然排便を促すように努めている。難しいときは訪問看護師に相談しアドバイスを頂くこともある。運動については、毎日ラジオ体操や食前体操で身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本として週2回午前中で入浴を行っている。季節ごとに菖蒲湯やゆず湯等も行い利用者楽しんで頂いている。また、足に疾患のある方や、入浴がない時は足浴を実施している。	週2回の入浴を基本としており、今は一般浴槽で対応できている。足浴は毎日行っており、フットケアが良いと評価を得ている。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じるケアも行っている。職員と1対1となる時間であり、会話を楽しむ良い機会ともなっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は一度臥床して頂いたり、休みたいときは活動時間でも休んで頂いたり個々のサイクルで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細を把握出来るように薬の袋に説明書を入れている。内服薬の変更があった場合は、職員全員が把握出来る場所に掲示し誤訳防止に努めている。また、内服薬について疑問が生じた場合等はお世話になっている薬局に相談して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を知り、その方の好きなことややりがいのある仕事、活動を把握し、喜びや気分転換になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段はいけない所等希望があれば可能な限り外出が出来よう支援している。また、ご家族の協力を得ながら自宅や墓参り、外食等の外出も出来ている。	現在は新型コロナ対策のため思うような外出支援ができず、我慢の時を過ごしている。ホーム周辺の散歩を楽しむ方もいる。また、玄関先での日光浴と外気浴も行っている。希望があれば町内をまわるミニドライブも行っている。制限がなくなれば、近辺に出掛けての、様々な外出支援を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の管理は職員が行っており、本人と確認しながら計画的に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者より希望があればご家族等電話でやり取りできるよう支援している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には花を飾ったり装飾をして季節を感じてもらえるよう努めている。共同の空間は常に整理整頓を心掛け居心地よく生活出来るよう配慮している。	ホールは食堂との兼用で、天井が高くて明るく開放感がある。昼食前にはラジオ体操と食前体操で明るい声が響いている。手作りの七夕飾りが吊り下げられ、季節感があふれている。秋になると、市民文化祭に参加する利用者の作品が飾られたりもする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で会話を楽しんだり活動が出来るように場所をセッティングして楽しく時間を過ごせるよう支援している。一人になりたい時は、居室や居心地の良い場所を用意出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前や入所時に本人やご家族に居室を見て頂き、話をしながら居心地よい居室になるように努めている。また、好きな花やご家族の写真を飾ったり、お気に入りの椅子を置いたり工夫している。	ベッドと筆筒、洗面台が備え付けられており、エアコンで冷暖房している。利用者は、それぞれに家族写真やテレビ、お気に入りの椅子などを持ち込み、居心地の良い居室空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は自分でダンス等開けたり、ポータブルを使用出来るように手すりを設置し安全に生活が送れるように対応している。		